



TITLE:

物價對策

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 物價對策. 經濟論叢 1940, 50(4): 437-451

ISSUE DATE:

1940-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/131374>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號四第卷十五第

月四年五十和昭

## 論叢

乘數の問題……

文學博士 高田保馬

支那の永小作制度……

經濟學博士 八木芳之助

## 時論

物價對策……

法學博士 神戸正雄

戰時物價對策の再出發……

經濟學博士 谷口吉彥

## 研究

江戸時代の經濟政策……

經濟學士 堀江保藏

期間分析と均衡概念……

經濟學士 青山秀夫

マックス・ウェバーと十九世紀の方法的意識……

經濟學士 出口勇藏

## 說苑

一九三九年の銀需給……

經濟學士 徳永清行

東西經濟思想の相似性……

經濟學士 穂積文雄

## 附錄

彙報

外國雜誌論題

# 時論

## 物價對策

神戸 正雄

### 緒言

物價問題ほど今日一般人の關心を有つ問題はない。産業人は勿論、大衆も之に悩んで居る。政府も切りに工作をしつつあるが、未だ確たる方策が立たず。其爲め闇取引が公行し、法律に對しての威信が失はれ、國民の道義が破られ、事變處理をも妨げて居る。其れで此問題の解決は一步誤れば大變な事になると憂慮せらるる。私が敢て之について卑見を述べんとする所以である。但し物價といふときに物品の種類も色々あり、問題も多岐に互る凡べてを盡して説く暇を有たぬ。茲には唯だ其一般論のみを試みるに止める。

### 第一 物價抑制策の必要

今日我國にて物價政策といへば、其は低物價政策であり、物價騰貴の抑制策である。今日我國にて物價を自然

に放任したとしたら、其が益々騰貴して已まぬ勢にある。之を抑制するのが必要とせられる。既に一應は昨年九月十八日相場で抑へた。そして更に實情に即して適正價格を定めつつある。爲めに多少彼の時のから見ても引上げられたのも出来たが、其は事情已むを得ぬものだけに限られ、出来るだけは抑制するの方針が採られて居る。何ぞに之を採るべきであるか。

(一) 財政上の理由——が其一である。即ち此際、物價騰貴の勢を放任したとしたら、折角の政府豫算の施行が不可能となり、特に戦時豫算の實行も不可能となつて、當面の國家的重大問題たる事變處理が臺無になつてしまふ。其は大變である。随つて物價騰貴の抑制は今日としては絶対に必要である。

(二) 經濟上の理由——もある。今日我國に課せられた最大使命は事變處理だが、之と關聯して、我國經濟が不足する所の軍需資材だけは、是非とも外國より入れなくてはならず、其爲め之が代價としての我國貨を出さなくてはならぬ。一には産金額であり、次には國產物である。即ち我國產物中から出来るだけ之を國內用から剩して輸出に振向けなければならぬ。其については其物が高い價でも出て行き得るならば其れは結構であるが、併しあまり高くては出て行くのがむづかしくなる。むしろ國內相場の騰貴しないやうに適當の處に抑へて置く方が出て行くのに好都合である。

(三) 社會上の理由——今日戦時下に一方には殷賑產業者が收入を名實とも増加して居るが、他方、平和產業者官公吏等にては名義上の收入は増加せずして、却つて物價騰貴のあつただけ實收を減少し、生活の壓迫を受けて居る。名義上の收入が若干増加しても、實收の増加之に伴はぬがある。其だけでも彼等に生活不安定を來たし、

舉國一致體制を破りつつあるのに、此以上、此勢を助けては大變である。何としても物價騰貴を抑制しなくてはならぬとする。

## 第二 物價抑制策の實行難

右いふ如く我國刻下、物價騰貴を抑制するの必要が存するが、しかし之が實行は容易でない。といふのは今日の我經濟組織が既に段々と統制經濟に進みつつはあるけれども、未だ之に徹底しては居らず、自由主義體制が残つて居り、一般人の心構も自由思想を脱し切らず、其爲め統制が破綻を來たし、政府の期待する如き結果が現はれぬからである。詳しくいふと、

(一) 純然たる自由主義經濟下——なれば、兎も角も、

(A) 物價の自然調節——が行はれて、放任して置いても、自らに其があまりに上りもせず、あまりに下りもせず、適當の處に落着く傾をもつ。其は物價と、生産消費輸入との關係からである。詳しくいふと、茲に物價が上つたとすれば、生産者が其から生ずる利益を收めやうとして、生産を増加して來るし、消費者は高い物ならば成るべく使はぬといふことになつて消費が自らに減退し、其處で供給増需要減ともなつて、物價は下らざるを得ぬやうになる。物價が下れば今度は、生産は利益が薄くなるから減少し、消費は増加し、供給減需要増ともなつて物價が上らなくてはならぬやうになる。更に物價が上れば輸入は増し輸出は減じて自ら物の國內に於ける供給増需要減となり、物價は下るやうになる。物價が下れば今度は輸入減、輸出増となり、物價が上げることにな

る。だから自由經濟にては格別の人工を用ゐずとも自然に物價が調節せらるるのである。但し、

(B) 自然調節妨害の動力——右生産消費輸入に依る物價の自然調節をば、多少妨害して、其の自然の儘に行はれしめない動力がある。其は金融と思惑とである。

(い) 思惑——といふものが自由主義經濟にて大なる勢力を有つ。此が夫の自然調節を變化させる。即ち物價が此先きまでく上るといふ見込のあるときには、一方に物の生産輸入は之に伴ふて増加し、消費輸出は減少しつつあつても、其の増加した物が買占められ、買溜めされ、賣措みせられて、市場に於ける需要が増加し供給が減退することになつて、上ぼりつつある物價は彌が上にも上ぼることになる。即ち自然調節の期待するやうに物價が下つて來ないことになる。又物價が此先きもつと下るといふ見込のあるときには、生産輸入は減じ消費輸出は増しても、偶々其物の其時までの蓄積が相當に大いときには、人は其をば一刻も早く賣逃しやうとして、市場に於ける供給が増加し、物を買入る方は出來るだけ當座入用のものだけに限つて、買ふのを手控ゆることになる。即ち需要が減少して、物價を益々下らしめる。必ずしも期待せらるゝやうに物價が上らない。處で此思惑により作用は物價の自然調節に逆行することにもなるものではあるが、其性質として極端に行くことが自らに抑へらるものである。其處に又一の自然調節が存する。思惑を爲す人々の間には通例強氣の者即ち將來物價が上ると見込むものと、弱氣のもの即ち將來下ると見込むものとがあつて競争して居り、そして彼等が各自分に好都合の條件を作らうと思つて工作をもするから、全體の市場としては甚しく物價を上げぬやうに導き、極端に下げることのないやうにも導くものである。

(ろ)金融——といふものが、生産や輸入の増減からして物價の自然調節の行はるるのを逆行せしめる力を有つ。即ち生産や輸入が増加すれば物價は自らに下るべき筈であるのに、金融が緩慢となれば、生産輸入を助長して此下落を助長するやうにもなるが、別に物を買溜めたり買占めたり賣惜を行ふことを助くることにもなつて物の需要増供給減を來して物價を上らしめることとなる。尤も此際、金融の生産輸入増を促す度合が強ければ其丈にては物の價を下ぐるといふこともあり得るが、併し其は特定の物にのみ生じて、多くの物はむしろ斯かる場合には上る方に傾くであらう。反對に金融逼迫すれば、生産輸入が減るので物價が上ぶるといふこともあるがしかし物の賣急ぎが多くなり買手が手控をして、爲めに供給が増し需要が減じて物價を下ぐるといふこともある。生産輸入減の度合が大であり、其も必要品にでも關するときには、かかる場合に其物が上ぶるといふこともあり得るけれども、其も少數の物に限られ、多くの物は矢張り下る方に向ふであらう。金融關係の事は通貨量とも關聯する。金融緩慢即ち通貨量の多くなるのは一般に物價を上げることになり、金融逼迫、即ち通貨量の少くなるのは物價を下げることになる。

(c) 人工調節の必要——かくして物價は自由主義の下に、自然に調節せられ、且つ思惑と金融とによりても動かされるが、自然調節の行はるるには相當時間がかかるので、其の相當の處まで落着くのを待ち切れぬといふことがあり、其を急速に進行せしめやうとして、人工策を以て左右する必要の生ずることもある。そして其人工策の中には金融政策もあり思惑抑制策もあるのである。

だから自由經濟の下に於ても、自然調節のみ行はるるのではないけれども、其れでも此自然調節が中心となつ

て行はれて、其れだけにてはあまりに高くなり過ぎることもなく、安くなり過ぎることもなく、適當の處に落着くことが出来る。其上にも思議の運動もが物價の極端なる動きを助けもするが、同時に之を牽制することにもよつて、一の自然調節の働きを成す。だから放任して置いても、長い時の間には甘く調節されるとも見らるるが、しかし、其長い間に於ける自然の調節は待つては居られぬので、人工的な調節も必要となつて来るし、然るときには却々實行はむつかしく、種々の支障に遇ふことになる。それは、つまりは人が利己心に基いて動くのを制仰しなければならぬからである。でも國家としては出来るだけのことを行ふことではあらう。

(二) 統制經濟下——にて、特に完全に統制が行はれたとしたら、物價は大體安定することが出来、動搖は餘程少くなり得る。例之、今日國家專賣の行はれて居る物につき、生産者からしては政府指定の價にて買上げられて消費者へは齊しく政府指定價にて賣渡されるやうになる。中間商人には一定歩合のみ拂はるる。此場合でも稍長い時の間に於ては、事情の變化に伴ひ若干の修正は必要となるが、時々刻々の動きはなくなり、此場合には國家が必要と考へて時の物價を抑制しやうと思へば、譯なく出来る。だから生産又は生活上に必要な若干の物につき、是非其價格の安定を期するといふならば、其根本的な方策は、之につきて國家專賣制を行ふことに歸するであらう。

(三) 自由統制混合制下——ともいふべき今日の我國では、一方に統制は行はれて居るが、根底は個人主義利己主義自由主義であり、私有財産制は嚴然として存在し、人心は未だ其から脱し切れない。即ち矛盾したものの結合であるから、統制は不十分にしか行はれない。國家が物價抑制策を行ふても、裏面から破綻を生ずるやうにな



る。國家が統制を行ふときには、彼は國民に向つて、全體主義公益主義を期待する。全體の爲めに各個人の利益を犠牲にすることを期するのである。しかし其は自由主義の根底たる利己心營利心とは矛盾する。利己心が勝てば統制破りは何としても行はれずには居ない。此時代に公定價格が公益上から定められても、個人の利益と相反することにあれば、之を無視して闇取引が行はれ闇相場が生ずるやうにもなる。此が即ち我國の現状である。

### 第三 物價抑制策の方法

物價抑制の方策、即ち物價騰貴を抑制するの方策如何。此が最後の最要の事項だが、其は要するに物の供給を多くすること、物の需要を減ずることとの外はない。唯だ其の生産を多くするとか、消費を少くするとかいふことだけでなく、其をも包容して物の供給を多くし且つ物の需要を少くすることが肝要となる。其供給増と需要減との二の中には、物の供給の方は大概、今日の時世では生産者及商人といふ營利人の興かる所だから、營利心に強く支配せられるので、國家全體上望ましとせらるる供給の増加といふ要望にも、彼等の利益と一致せぬ限りは行はれにくいといふ傾が強い。需要の部面にも一部は營利人の營業關係よりの其があつて、此も營利心から支配せられて、必ずしも全體上望ましき需要減の線には沿ふて動かない。其需要の中には更らに政府といふ大消費者の豫算施行から來るものがあるが、此も時局下にては節減難といふことがある。此方は公益を最多く考ふべき部面であるに拘らず、其が思ふに任せぬ事情にある。獨り非營利的な消費者大衆の關する物の需要だけは、其道義心、公共心に訴へて、或大な度に於て其個人の利益を抑へて節制を行はしめることが出來得る。今日の物

價策は色々行ふべきことは多く、出来るだけは其の凡べてに互つて行はなくてはならぬが、しかし結局は此處に重點を置く外はない。つまり國民の精神的協力に力を入れなければならぬ。今左に其方策を列記して批評を加へる。

(一) 物の供給を増加する方策

(A) 生産増加——は供給増加の根底となる。併し此は物價の先高方針を定めて獎勵すれば行ひ易いが、此物價を抑へて置いて生産を増加させやうといふのは、行ひ難いことではある。さりとて此際之を行はぬことは出来ぬし、又其方針が物價先安といふのではないから、其安定といふのが生産者に安心を與へるといふ部面もある。

(イ) 生産者に於ける公共心の發揮——出来れば此際、生産者が公共心、愛國心を作興して假令其利益が薄くとも、又は堪へらるるだけにては多少損をしても、出来るだけ多く全體の爲めに生産を行うといふことになつて欲しいが、營利本位の彼等には實際期待が出来ぬかも知れない。尤も營利人としても、此迄慣れたる仕事には執着を有つといふこともあり、又彼等の心の中には或度までの道義心も潜むから、萬更ら此事が絶望といふことはあるまい。

(ろ) 不要品の生産制限——今日のやうに生活上及産業上必要なる品物を充實して其價格を抑制する必要なときには、兎角、此方にばかり注目して方策を講じ、比較的不要なる品物の事は看過せられることになり勝であるが、其れではいけない。此不要品の生産をも抑制する方策を行つて、自ら人をして必要品の生産の方に向はざるを得ざらしめることが肝要である。此が間接に、必要品の生産を増加する所以となる。若も不要品の生産が

自由であると、其時に恰かも、世間の購買力が相當にあつて不要品贅澤品への需要が相當に存するときには、人がむしる價格の抑制せらるる必要品を去つて、價格の抑制の開放されたる、價格の限なく上りつつある不要品の生産に向ひ、其爲め必要品の價格は抑へられても品不足となつて消費大衆が苦しむことになる。實に此が果服物の近狀である。

(ハ) 必要品生産から他業へ轉業することの制限——必要品價格が抑制せらるるときに、其生産利益が薄くなるといふので、利益多き他業へ轉ずるものが多くなつて、必要品生産が減ずる。其れではいけない。此轉業には相當の制限方法を講じなければならぬ。

(ニ) 不要品の價格抑制——一應は必要品さへ價格を抑制すれば可とも考へらるるが、此だけでは足らない。矢張り不要品の方の價格をも抑制しないと、人が不要品生産の方へ向ふことになつて、必要品を作らないやうになる。だから甚だ面倒ではあるが、此方まで抑制を廣げなければならぬとする。

(ホ) 生産への低利資金の供給——金融を緩めることは供給者をして供給を差控へさせることになつて、物價抑制を破ることになるが、現に生産を行ひつつある者にして其生産を遂行し擴張するに必要な資金に缺乏を感じて居るものへは、特に其物が必要な品物に關するときは、之に低利資金を供するのが、其生産を増加し充實するに役立つ。

(ヘ) 人的及物的資材の供給——必要品生産者が今日、勞力、原料、石炭、電力、肥料などの不足に苦しみ、其爲め生産を縮小せざるを得ぬものの存するだけに於ては、出來るだけの方策を講じて、之を補給するやうにしな

ければならぬとする。

(と)生産の能率増進、經營の合理化、生産費減少の方途——を講ずることは此際の際の生産に於ては最望ましい此が行はれたら、價格を引上げずとも、當業者の利潤を豊かにし得る。

(ち)利潤及賃金の抑制——といふことも物價を抑制するに必要である。此が生産費を少くする所以である。そして此事は獨り必要品生産のみに限るべきものでなく、凡べての産業を通じて行ふべきである。

(り)補給金、増産獎勵金の交付——當業者が必要品の生産に従事して、抑制されたる價格の下にて損失を被むるだけにては、政府から之を補給し、又は前よりも多く生産した者へ獎勵金を交付して、其生産を維持し又は其増加を計らなければならぬ。但し此が交付は他面に、通貨膨脹となつて、物價騰貴を助長するといふことも心配せらるる。しかし此方は別の方にて之を引締めるとすれば良い。

(B)配給の圓滑——幾ら物が多く出来ても、其が圓滑に配給されなければ、物が市場に足らぬことになり、自ら物價の騰貴が抑へ切れなくなる。此配給を圓滑にするのには、商人生産者を出来れば一貫して配給統制下に置き、以て其配給の圓滑を期し、尙ほ、陸上及海上の運輸機關を動員して之を助けしめることが望ましい。此に商人系統と産業組合系統との二つのものが相剋摩擦しつつあるが、此には彼等を妥協させて各の分野を明定したる。

(C)思惑の抑制——思惑が生産者商人の間に盛んに行はるときに、物はあつても買占、買溜、賣惜が行はれて、物が市場に出廻らず、物が自ら高くなる。之を抑へなければならぬ。其には、

(い)物價騰貴抑制策の堅持——物價を將來とも必ず抑制するといふ方針を政府にて堅持することが世人に信頼せらるるといふのが思惑を制する所以である。此信頼が政府に對して存しないときには、營利人としては假令或犠牲を拂つても思惑を行ひ、物價を實際上らしめなければ已まない。それで夫の政策堅持が大事である。同時に重なる必要品に於ける増産政策の確立もなくてはならぬし、此に其の外國からの輸入の助長、外國への輸出の抑制(場合により外國事情の變化による輸出困難があつて之を助ける)、自然現象の好化による増産見込(天候の農作上の影響の如き)が伴へば一層好結果を收めしめる。

(ろ)道德としての思惑遠慮——今日の物價騰貴抑制が全體上望ましとするときに、國民は凡べて之に協力するの義務がある。かかる義務は一般大衆のみならず、營利人とても國民としては負ふべきものである。各人は道義的には本來、自分のみの利益を計つてはならず、唯だ公益と一致するだけにてのみ之を計るべきものである。で彼等が之を十分理解し自覺して、思惑をば出来るだけ控へるやうにあらう。しかし營利人に之を期するのはむづかしい事ではあらう。ただ其中でも農民の如きには、其農産物の賣却につき思惑を行ふて或時にかためて賣るといふよりは、むしろ毎月平均賣を行ふのが安全だといふこと、其が彼等の終局の利益にも合致し、國家全體上にも良き結果を生ずることを知らしめることが望ましい。しかし此も近頃のやうに營利性を強く有つやうになつた農民には望み難いのかも知れない。

(は)金融の引締——營利人の思惑を抑めるには、其金融を引締めるのが有效である。しかし事實、彼等が既に自ら現金を多く持ち、預金を多く持ち、彼等の信用の土臺の強くなつたときに、銀行として其預金の引出を拒

むことも出来ず、貸出を行はぬといふことも出来ない。其處で現に見るやうに其中の有力なるものが之を利用し力に任かせて買占を行ひ、賣情を行ひ、物價騰貴を助けるやうにもなる。物價が將來下るといふ見透がつけば此思惑を行はぬが、今日のやうに上る方の見込の多く、政府の腰が第一ぐらうして居るときには、思惑を制したい。此に金利引上が一策だが、此低金利政策時代には行へず、預金引出の制限といふこともあるが、其は今日の銀行組織下では行ひ難い。之を行ふとしたら銀行預金が集らなくなり、銀行が立ち行かなくなる。で結局、銀行に出来るだけ多く公債を持たせて、間接に貸出制限を行はしめるとか、銀行をして出来るだけ思惑資金の供給を手控へさせるといふ位のことしか行へず、徹底的には此思惑が制し難い。

(二) 非常時法の厳行——結局、今日の思惑による物の買溜、賣惜を抑制するには、徴用令の發動、藏品の徹底検査、闇取引の嚴罰などを行ふことが必要ともなる。

## (二) 物の需要を減する方策

(A) 政府に於ける物の需要を減すること——政府は國民經濟中の最大の消費者だから、此に於ける需要を減することが出来れば、全體上物の需要を減するのにも、通貨の膨脹を抑へるのにも有効である。

(イ) 軍事豫算——にも緊縮が望ましいが、しかし此は事變處理の爲めに、今、急には望みがない。

(ロ) 文治費豫算——にては一方に軍事豫算が國家的重大必要の爲め増大しただけは、國家、地方財政及人民側に於ける其他の消費を節するの必要である。然るに實際には政府側にては時局の必要に便乗して、文治費豫算の増大しつつあるのは遺憾である。之を切詰めると共に、金の使ひ方にも濫費を慎むやうに、當局者の自制を

望んで已まない。

(B) 民間の需要を減ずること

(一) 強制的方法

① 増税——が國民の購買力を巻き上げて、國民に於ける物の需要を減ずる所以だが、しかし此には増税額だけ物の價を引上げるといふ部面もある。

② 營業者の差増利益、俸給者の昇給額の一部には据置國債に應ずる義務を負はしめること——が其購買力を抑ゆる所以である。据置公債とは一定の長い期間、其實買質入を差止め、之を以て金に換へることの禁止されたものであり、其れによりて有効に購買力を封鎖することを得る。

③ 切符制——が需要を抑ゆる爲めに有効である。此は面倒であつても、出来るだけは行ひたい。少くとも今日のやうに金さへあれば、物が幾らでも買ひ得て、其爲め購買力ある人だけが、不用なる長年月にも互る必要品を買溜め得て、多くの民衆には行渡らぬといふやうではいけない。必要品は各一人當り最高限を定めて、其以上買入れ得ないやうにしなければならぬ。

④ 預金引出制限——も購買力抑制とはなるが、此は最後の方法である。

(二) 任意の方法

① 全然各人の任意によるもの

(a) 物の消費を節約し生活合理化を計り且つ買溜を慎むこと——此事は國民が公共道義國民道義を自覺

すれば、可なりの度まで行はれ得る。人が買溜を行ふといふことは、他の同胞に迷惑をかけるのであり、相済まぬとしなければならぬし、國家に於て今日軍需の増しただけは他の需要を減じなくてはならぬといふことも理解しなければならぬし、人々が此だけのことを理解したならば、消費の節約、生活合理化の徹底、買溜の遠慮を決意し得る。尙ほ戦場にて同胞が困苦缺乏に堪へつつあることも亦顧慮しなくては濟まぬとする。此等の事は一般人のみならず、此際殷賑産業に従事して購買力を増加した人に對して特に反省を乞はなければならぬ。

(b) 任意預金、任意公債應募——人は物の消費購入を節すると共に、反面に於て、收得したる金を出來るだけ蓄積することが肝要である。其には此際、色々の投資法はあるけれども、公債、預金などは最好箇の對象である。保險も之に準ずるとして良い。

② 外部からの助長策としては、

(a) 富籤發行——もあるが、此は人の周ねく知る如く餘弊が多いので、奨められない。

(b) 割増付公債の發行——此も一方法であり、今度政府が之を行はうとして居るが、弊害のあることは前と同じである。

(c) 据置國債の新設、据置預金の普及——此は弊害少くして通貨收縮に有效である。此際特に据置國債を奨める。此にては前のものの如くに富籤又は割増に當つたからといふて、得たるものにて浪費するといふやうなこともなく、當らなかつたからといふて失望し浪費するといふこともなく、有つ所の國債を賣却し又は質入して金に換へて使ふといふこともなく、或期間其購買力を封鎖し得るし、且つ國家に其の必要とする財源を供する



といふことも出来る。或は此据置公債を助長する爲めに、其利子への免税を行ふといふのも一方法である。或は其利子の支拂をも一定期後まで延期し此時になつてかためて支拂ふやうにし、又は割引發行とするといふのも一方法である。

## 結 言

以上要之、物價抑制は今日の我國では最必要であり、方策も多岐であるが、中には今日の事情として實行難のある。しかし出来るだけ之を行はなくてはならぬ。營利人までが公共道義心を起して、共力して呉れるやうになれば、其に越したことはないが、少くとも消費者大衆としては、能く時局を認識して、其の有つ金錢及物品につき、強制を待たずして任意に全體に奉仕する精神を振ひ起して、消費を遠慮するやうになつて欲しい。其が戦場に出でて生命をも獻げ、有らゆる困苦缺乏に堪へつつある人のことを偲べば出来ることであり、又萬一之を行はなかつたとしたら、癪がて國家の必要とする事變處理を妨害することにもなり、戦場で敵に背を見せたと同じ不忠を行ふものとして反省しなければならぬ。物價政策にて一番大事なのは國民の精神の鍛錬である。